

1 第8号線（今里筋線）の延伸 [今里～湯里六丁目]

(1) 路線の概要

第8号線の延伸（今里～湯里六丁目）の概要を、以下のとおりに示す。

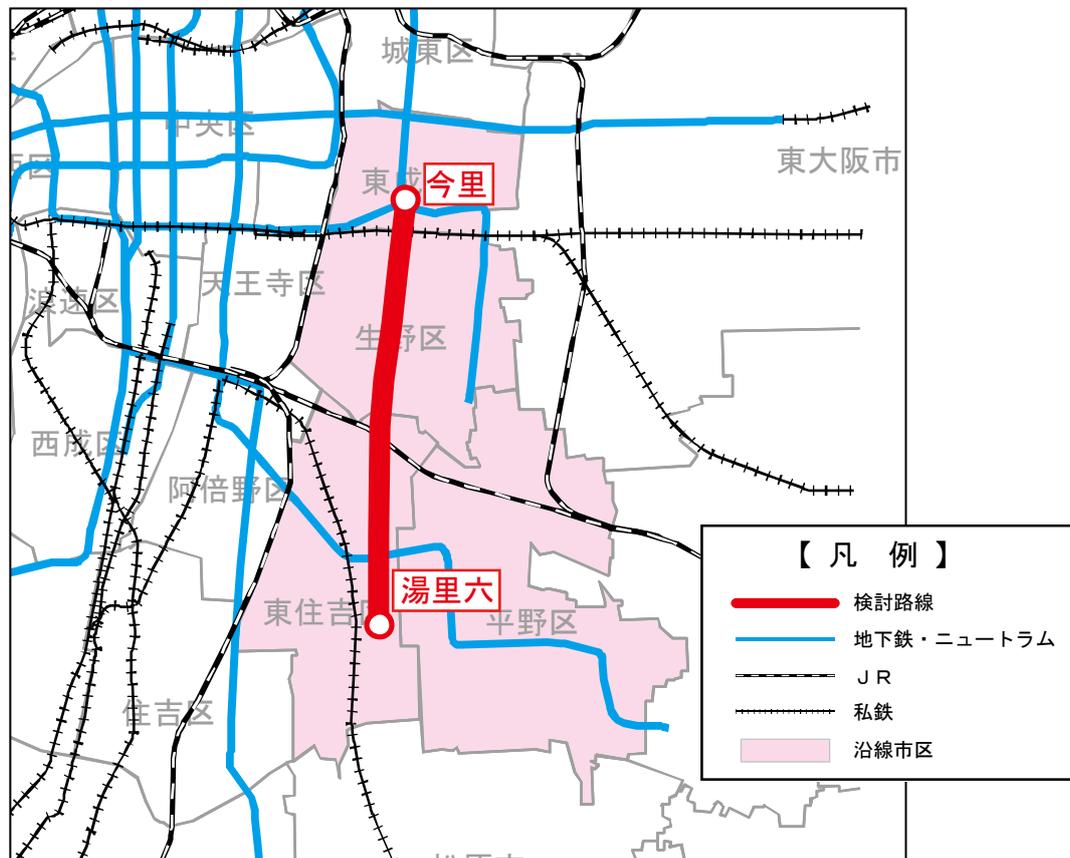


図 1-1 第8号線延伸区間の路線図

表 1-1 第8号線の延伸の概要

諸元	区間	今里～湯里六丁目
	延長	建設区間：6.7km 営業区間：6.7km
	車両	リニアモーター駆動式中量規模地下鉄
	車両編成	4両
	運転	ワンマン運転
	運転間隔	運転間隔 朝ラッシュ：4分～5分、夕ラッシュ：5分、昼間：10分 ※今里筋線の既設区間と同程度を想定
	工法	全線地下式
	車庫	鶴見北車庫（既設）

表 1-2 第8号線の延伸の概要(続き)

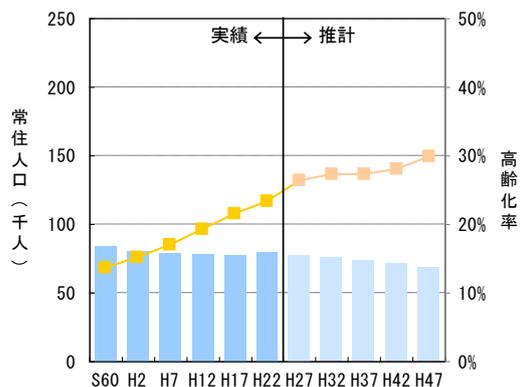
経緯		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 57 年の「大阪を中心とする鉄道網整備網構想について」において、構想路線に位置づけ。 ・平成元年に「大阪市交通事業の設置等に関する条例」に位置づけ。 ・平成 8 年 12 月 井高野～湯里六丁目間が次期整備路線として大阪市会です承 ・平成 10 年 8 月 井高野～今里間が旧運輸省の平成 11 年度国家予算概算要求に盛り込まれる ・平成 17 年 8 月 今里～湯里六丁目間が地下鉄新規路線として国交省の平成 18 年度予算概算要求に盛り込まれる ・平成 17 年 11 月 本市都市経営会議にて、市の財政が厳しいことなどから補助採択要望の取り下げを決定 ・平成 22 年 10 月 13 日 市会において、全会一致で第 8 号線（今里・湯里六丁目間）の早期整備を求める決議が可決
国の答申における位置づけ	運輸政策審議会答申第 10 号 (平成元年 5 月)	今後整備について検討すべき路線（ランク C） 大阪市東部地域の市街地再開発の状況、当該再開発に伴う新規需要の規模、都市新バスシステム及び環状方向の他路線による対応等を総合的に勘案して、路線整備の必要性を検討。
	近畿地方交通審議会答申第 8 号 (平成 16 年 10 月)	中長期的に望まれる鉄道ネットワークを構成する新たな路線 大阪市都心周辺部において、放射状路線と連絡し環状方向の流動に対応する路線である。
市会での主な議論 (新たな提案に関すること)		<ul style="list-style-type: none"> ・湯里六丁目で止めるのではなく、長居まで伸ばして御堂筋線に接続 ・生野区南部の木造密集市街地の問題は鉄道整備と一体で考えるべき ・国の答申選定の際に都市再生の視点を入れるよう要望 ・以前、とりあえず杭全まで検討してもらえないかと話したが、大阪市のやっている以上は（途中の）その位置はできないという回答だったが、民間の方が柔軟に考えられるのでは ・延伸し、そこに都市開発を組み込むのが大事ではないか ・まちづくりも含めて主体的に取り組んでいく必要もある ・地下鉄整備はまちにとって大事なインフラ整備であり税金でやるべき
沿線の状況	道路幅員	道路幅員 30m（片側 3 車線）今里交差点～杭全交差点 道路幅員 25m（片側 2 車線）杭全交差点～湯里六交差点
	沿線 4 区の合計（平成 22 年）	
	常住人口	約 54.5（万人）
	就業人口	約 22.8（万人）
	従業人口	約 20.9（万人）
	沿線から 500m にかかる町丁の合計（平成 22 年）※従業人口のみ平成 21 年	
	常住人口	約 17.8（万人）
	高齢化率	約 25.6（%）
	人口密度	約 15.8（千人/km ² ）
従業人口	約 7.9（万人）	

(2) 沿線区の概況

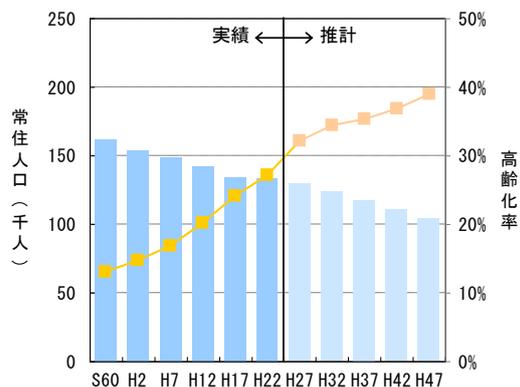
① 常住人口の推移

生野区及び東住吉区では、常住人口は昭和60年以降減少傾向にあり、高齢化率は大阪市を大きく上回り、高齢化が急速に進んでいる。

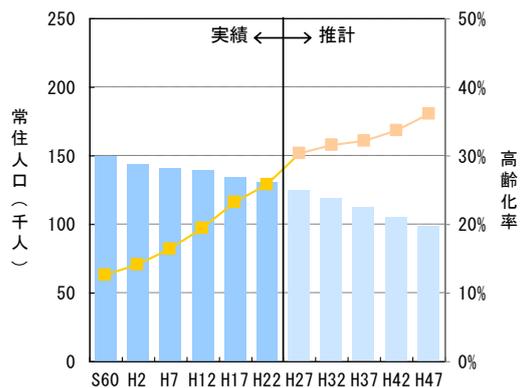
<東成区>



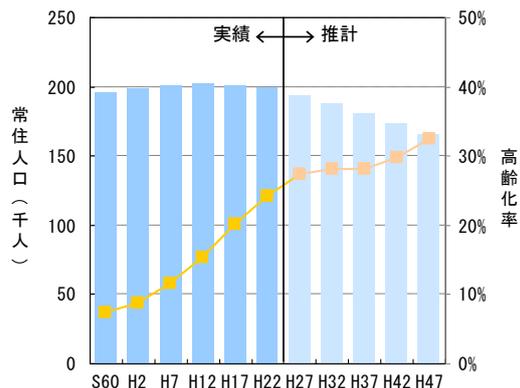
<生野区>



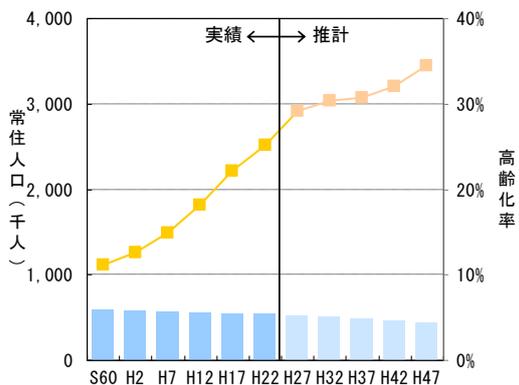
<東住吉区>



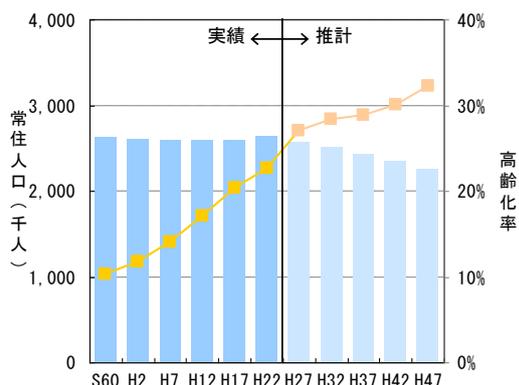
<平野区>



≪4区計>



≪大阪市>



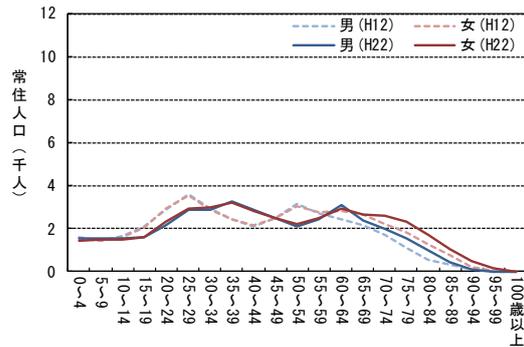
■ 常住人口 ■ 高齢化率

資料：(実績)国勢調査、(推計)国立社会保障・人口問題研究所資料
図 1-2 常住人口及び高齢化率の推移

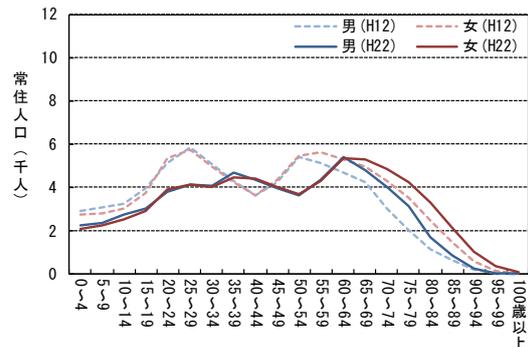
② 人口分布

すべての沿線区において、平成12年の25～29歳及び50～54歳の2つのピークが、平成22年に35～39歳及び60～64歳へ移行している。また、平成22年の生産年齢人口は、平成12年より減少している。

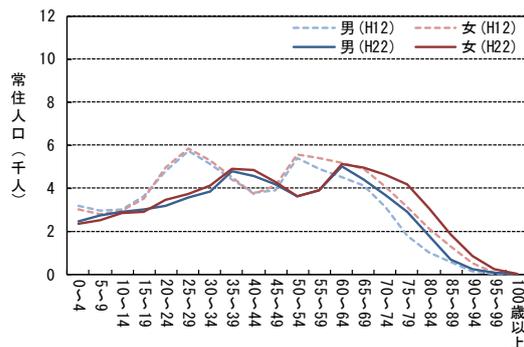
<東成区>



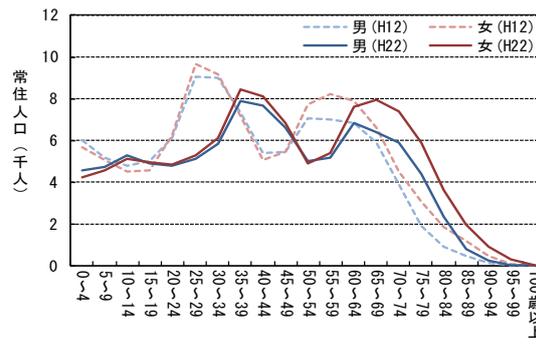
<生野区>



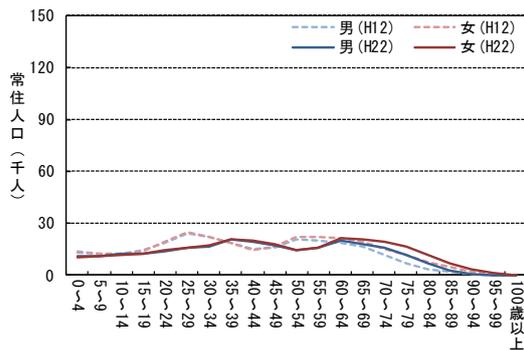
<東住吉区>



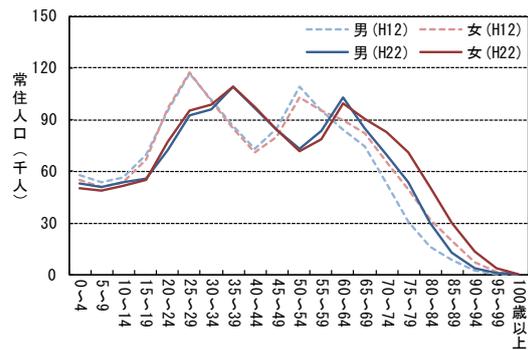
<平野区>



≪4区計≫



≪大阪市≫



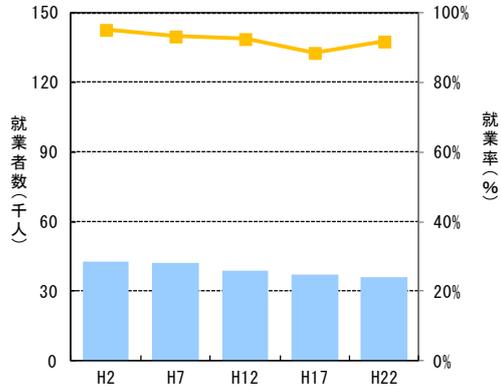
資料：国勢調査

図 1-3 人口ピラミッド

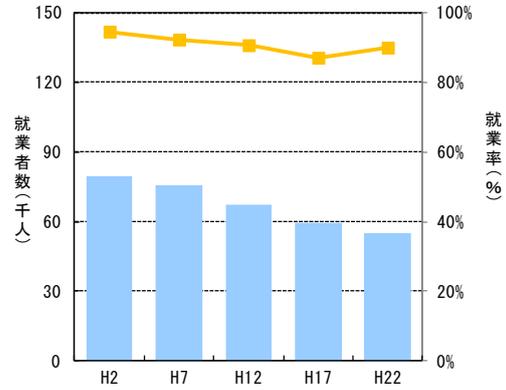
③ 就業人口の推移

すべての沿線区において、大阪市同様、平成2年以降減少傾向にある。

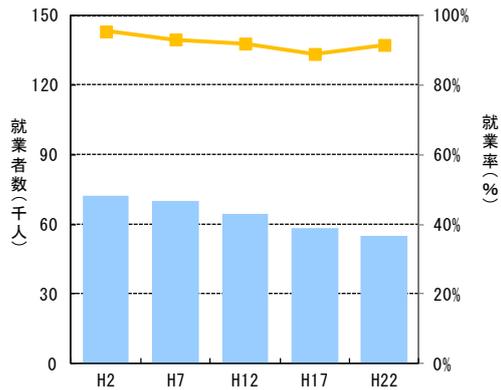
<東成区>



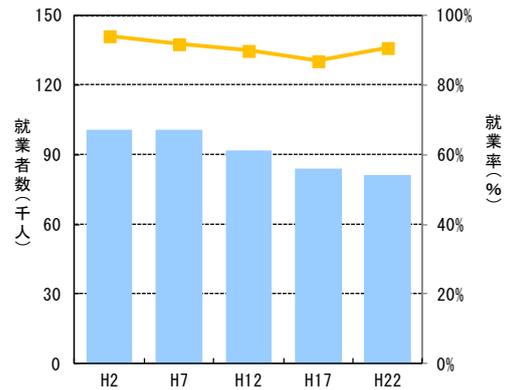
<生野区>



<東住吉区>



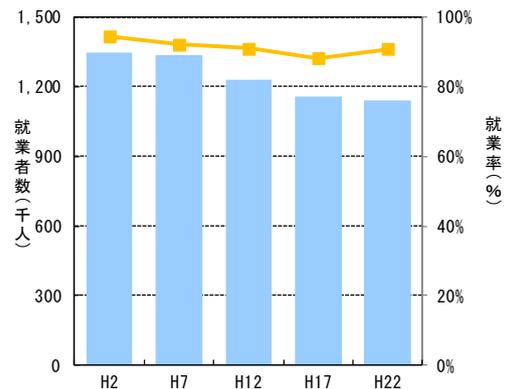
<平野区>



≪4区計≫



≪大阪市≫



■ 就業者数 ■ 就業率

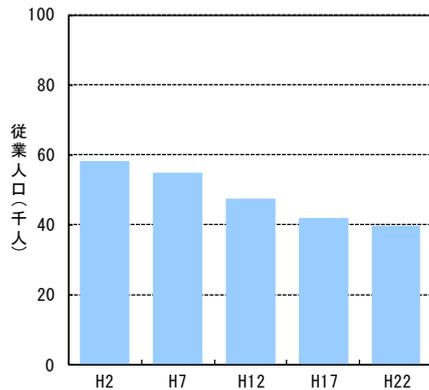
資料：国勢調査

図 1-4 就業人口の推移

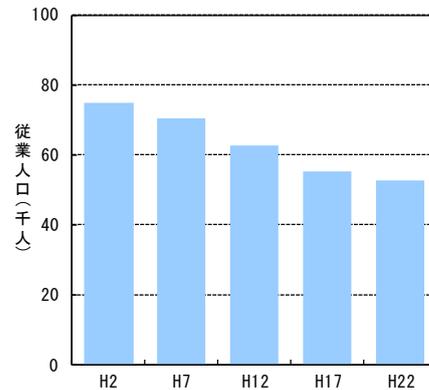
④ 従業人口の推移

東成区及び生野区、東住吉区では、平成2年以降減少傾向にあり、東成区及び生野区では減少が著しい。

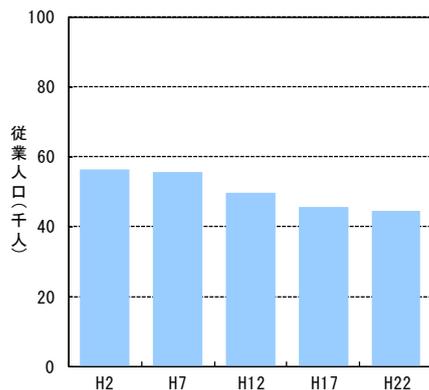
<東成区>



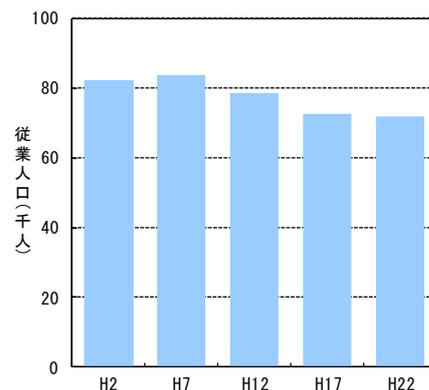
<生野区>



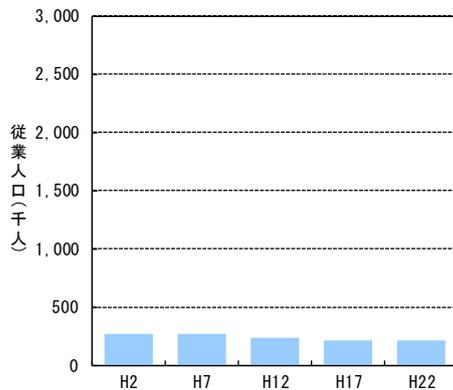
<東住吉区>



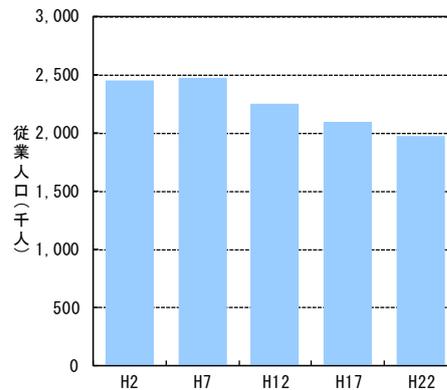
<平野区>



≪4区計≫



≪大阪市≫



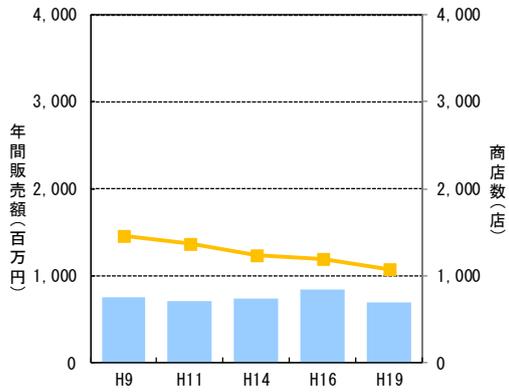
資料：国勢調査

図 1-5 従業人口の推移

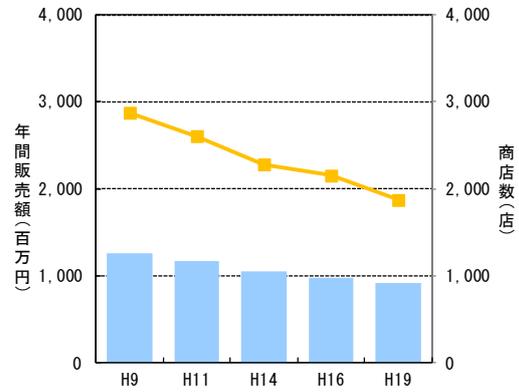
⑤ 小売業販売額

年間販売額は、生野区及び東住吉区において減少傾向にある。

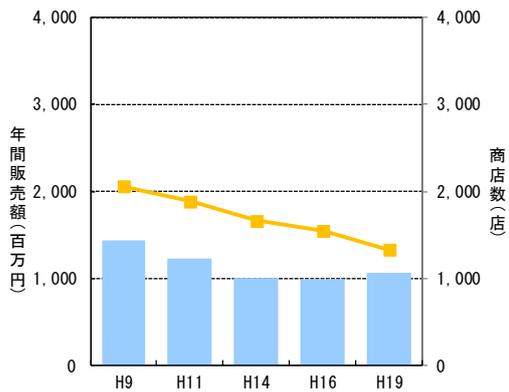
<東成区>



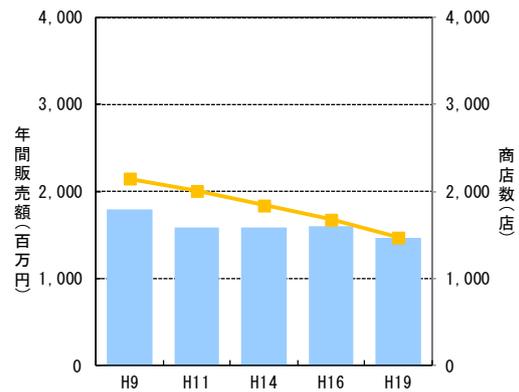
<生野区>



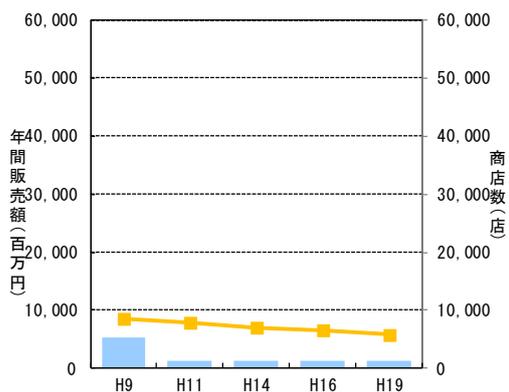
<東住吉区>



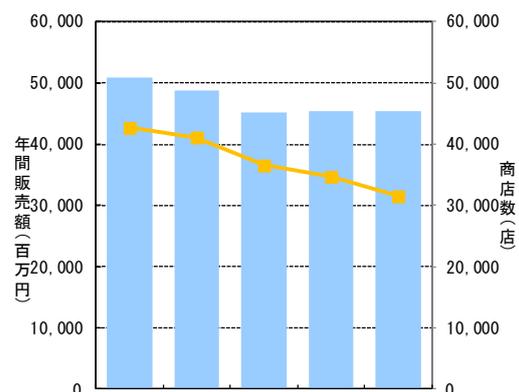
<平野区>



《4区計》



《大阪市》



■ 年間販売額 ■ 商店数

資料：商業統計調査

図 1-6 小売業販売額の推移

(3) 沿線の概況

① 都市計画 (用途地域・都市施設)

第8号線延伸部沿線の北部では、住居地域と準工業地帯が混在した地域となっている。

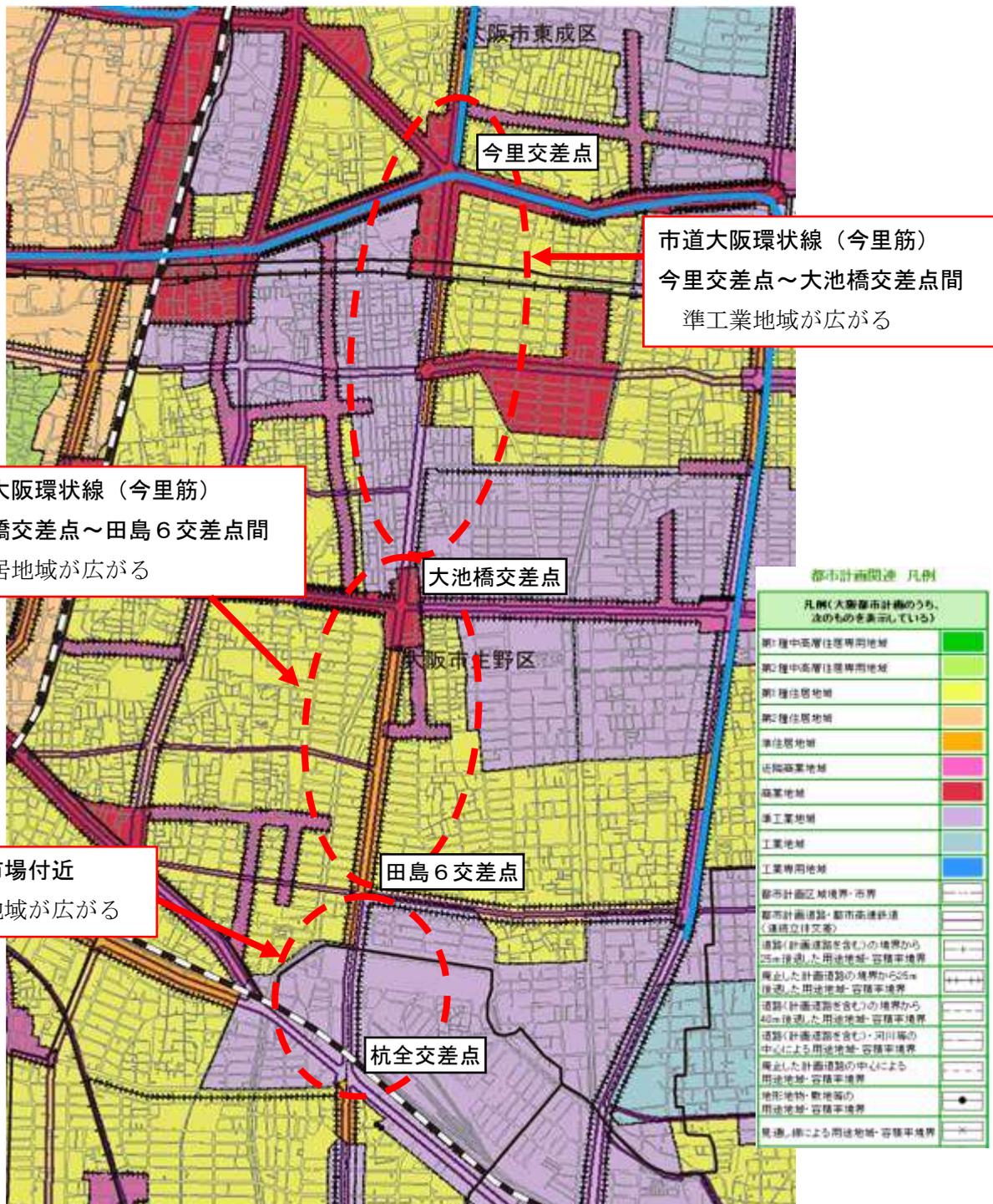


図 1-7 都市計画図(用途地域:第8号線延伸部北部)

一方の南部では、沿道の一部を除き、南へ行くほど住居地域が広がる。

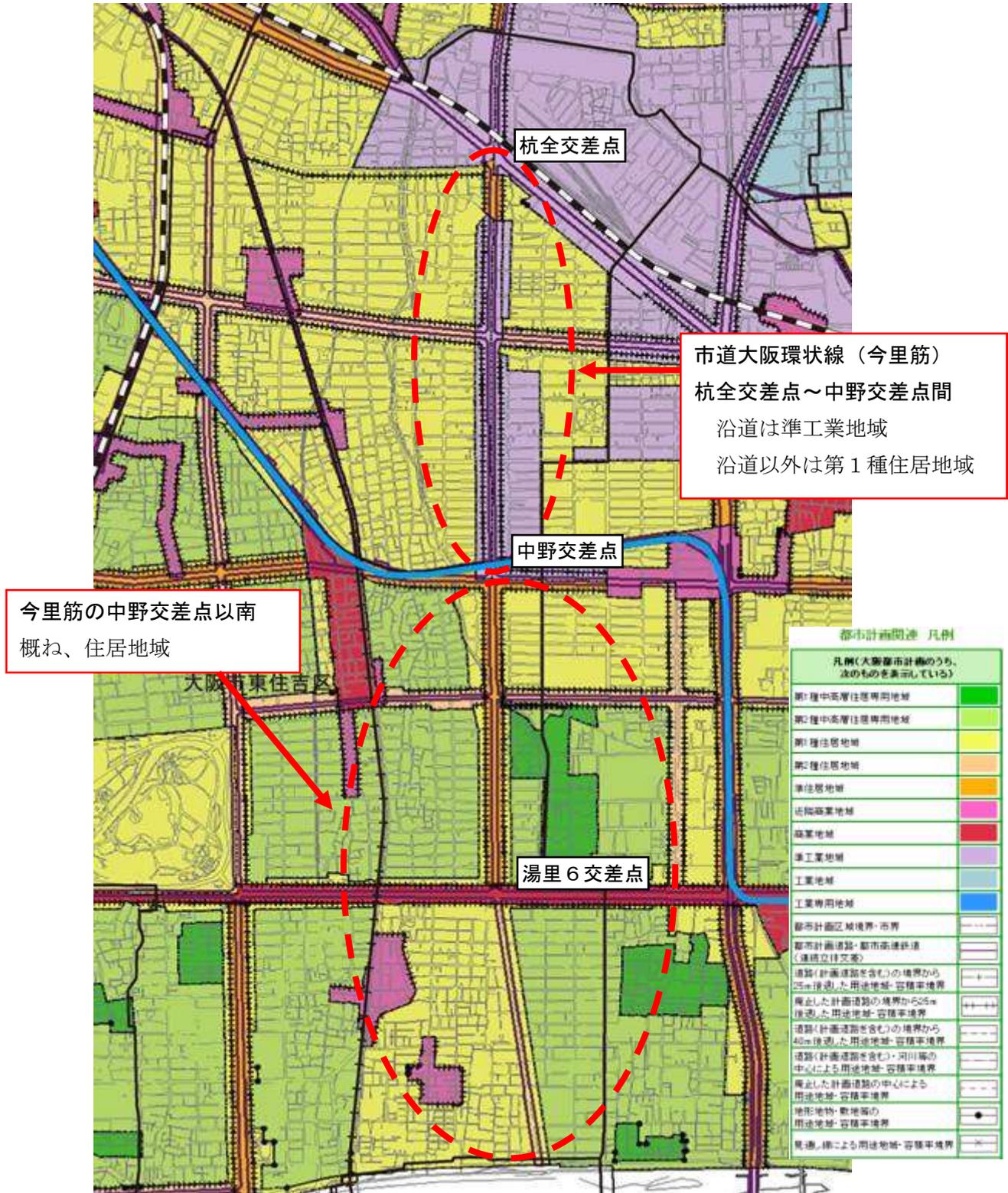


図 1-8 都市計画図(用途地域:第8号線延伸部南部)

都市施設は、沿線北部では街区公園および近隣公園が立地するのみである。

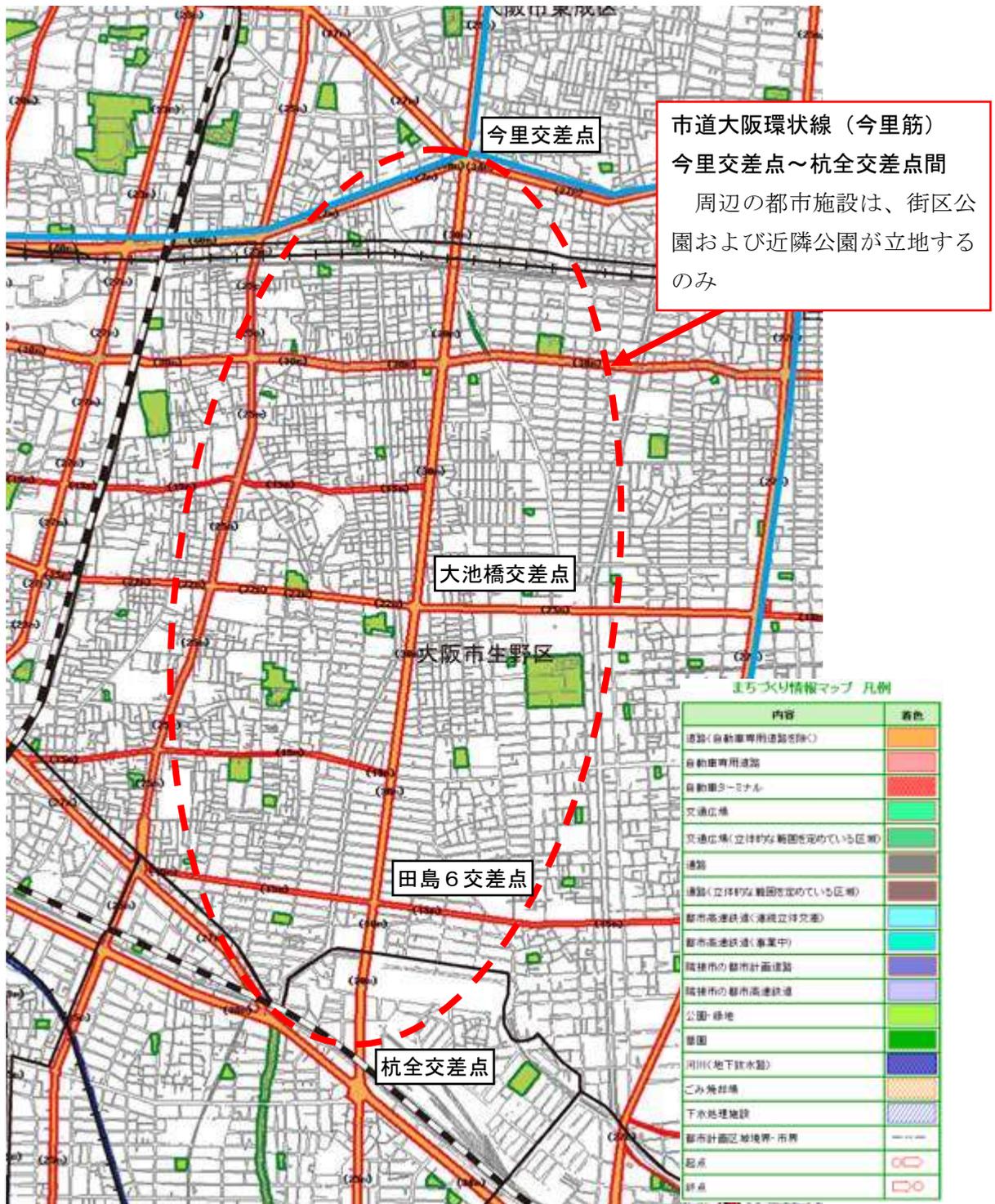


図 1-9 都市計画図(都市施設:第8号線延伸部北部)

一方の南部では、百済公園（今川緑道）が並行するなど、北部と比べて大きな緑地も見られる。

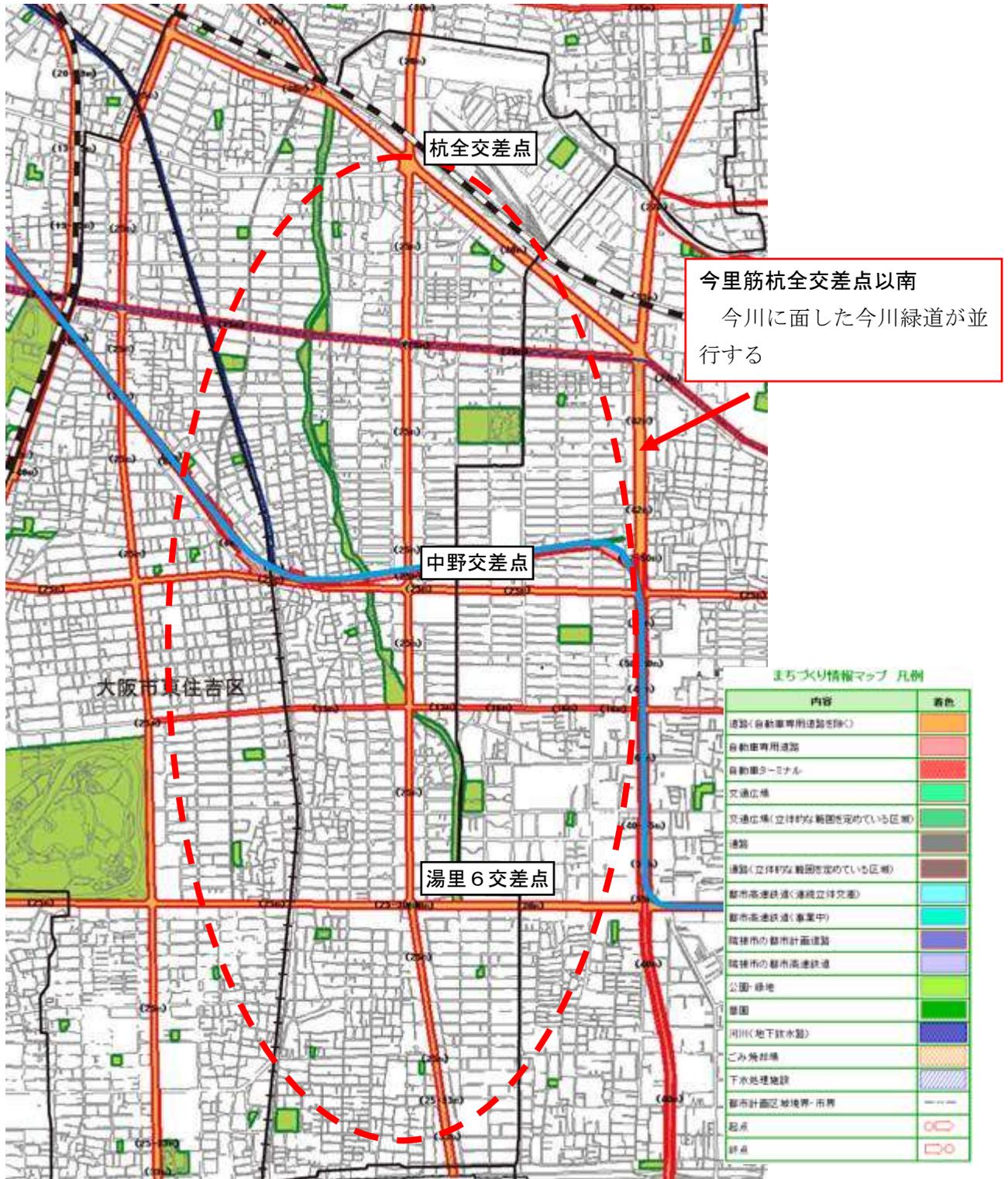
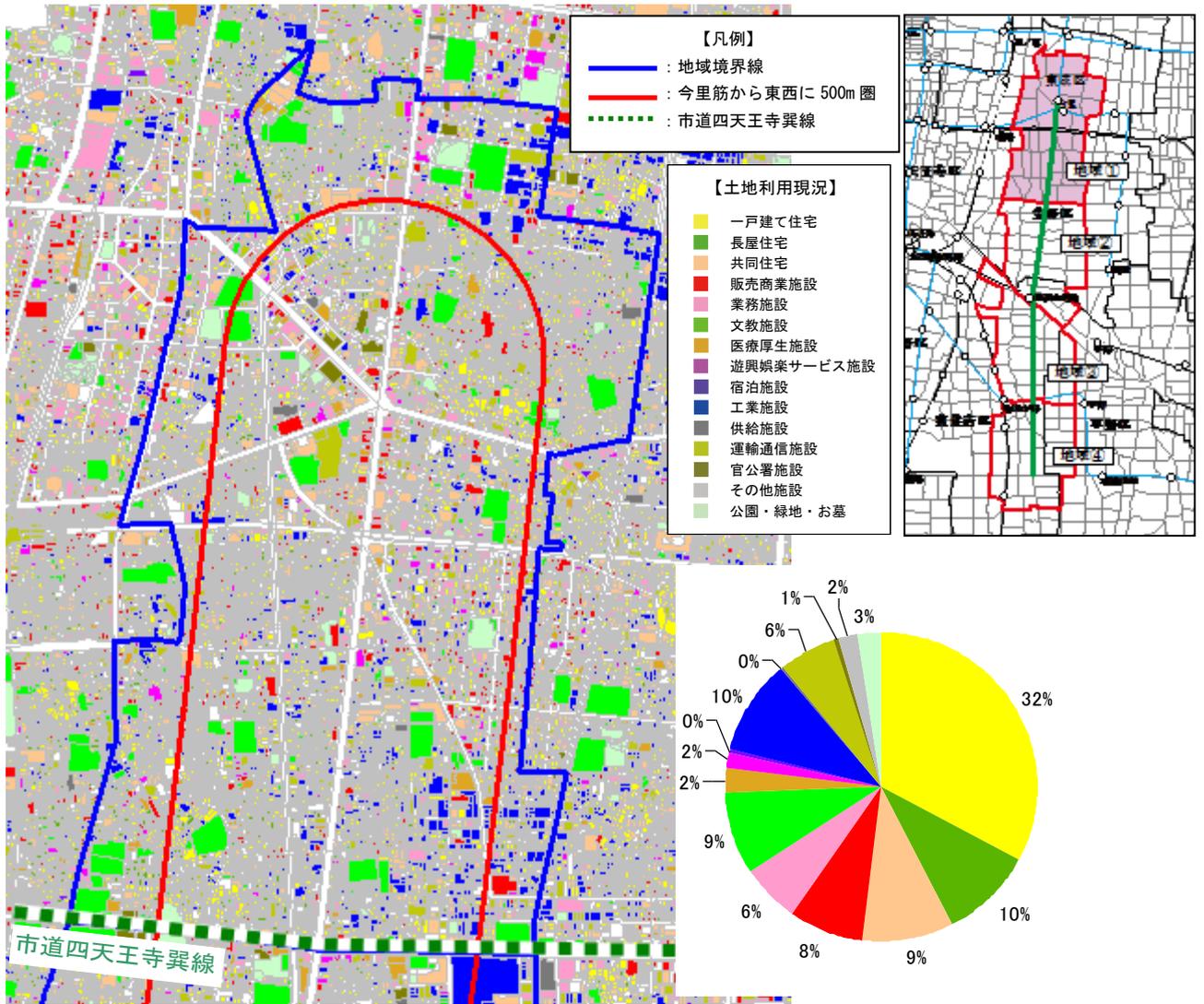


図 1-10 都市計画図(都市施設:第8号線延伸部南部)

② 土地利用現況

●地域①（「市道四天王寺異線」以北）

沿線の市道四天王寺異線以北では、土地利用では一戸建て住宅の割合が高く、約 65 千人が常住する住宅地であるが、従業者も約 27 千人が従業。



資料：平成 19 年土地利用現況調査（大阪市内のみを対象とした調査）
（今里筋から東西に 500m 以内に町丁の一部が範囲となる地域を対象とした）

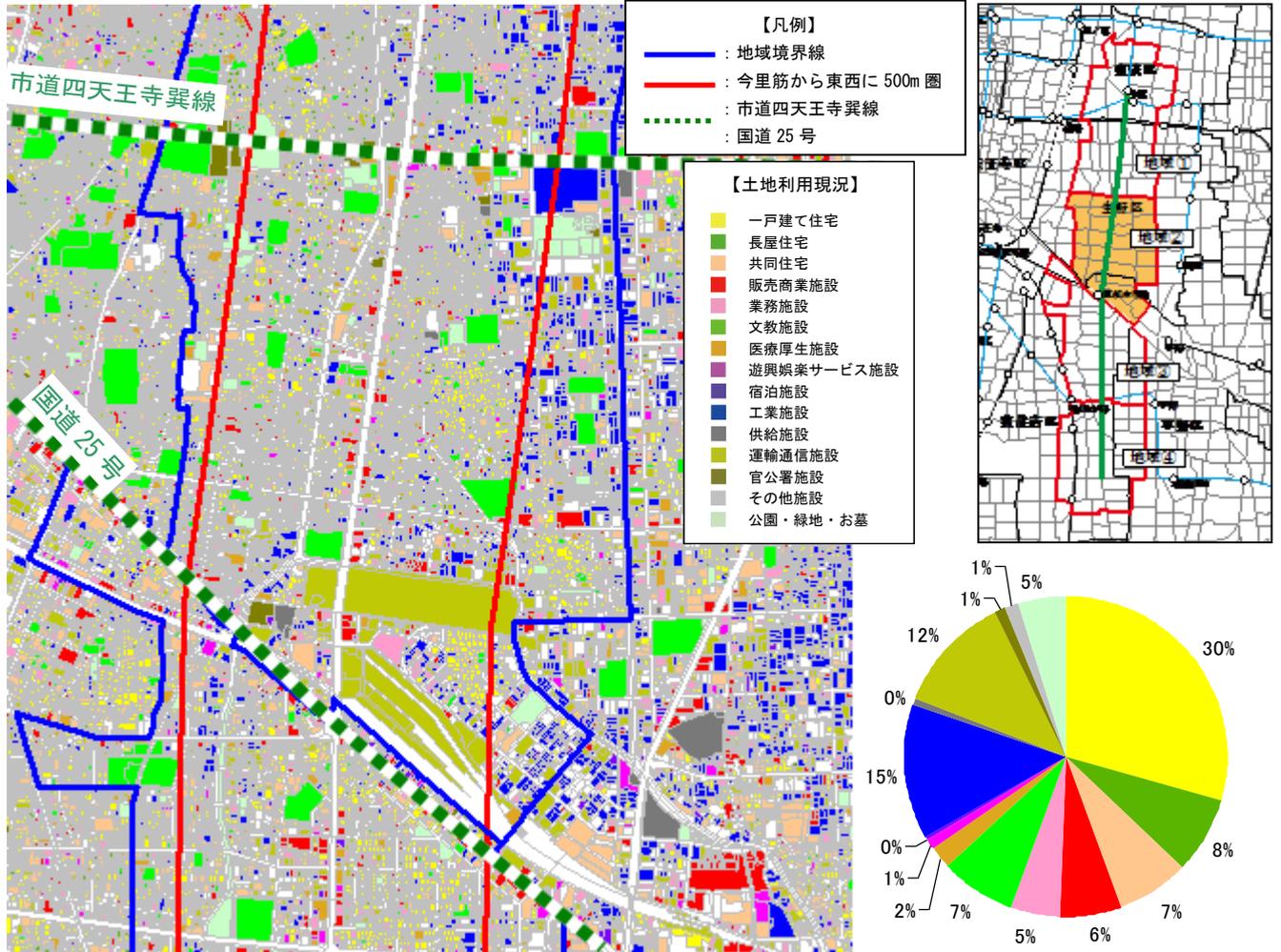
図 1-11 地域①の土地利用状況

表 1-3 地域①の主要指標

人口	64,689 人 (H22 国勢調査)
高齢化率	25.4% (H22 国勢調査)
人口密度	18.82 千人/k m ² (H22 国勢調査)
従業人口	27,064 人 (H21 経済センサス)

●地域②（「市道四天王寺巽線」以南～「国道 25 号」以北）

沿線の市道四天王寺巽線以南～国道 25 号においても、土地利用では一戸建て住宅の割合が高いが、地域①と比べて、人口密度が低く、高齢者の割合が高い。



資料：平成 19 年土地利用現況調査(大阪市内のみを対象とした調査)
(今里筋から東西に 500m 以内に町丁の一部が範囲となる地域を対象とした)

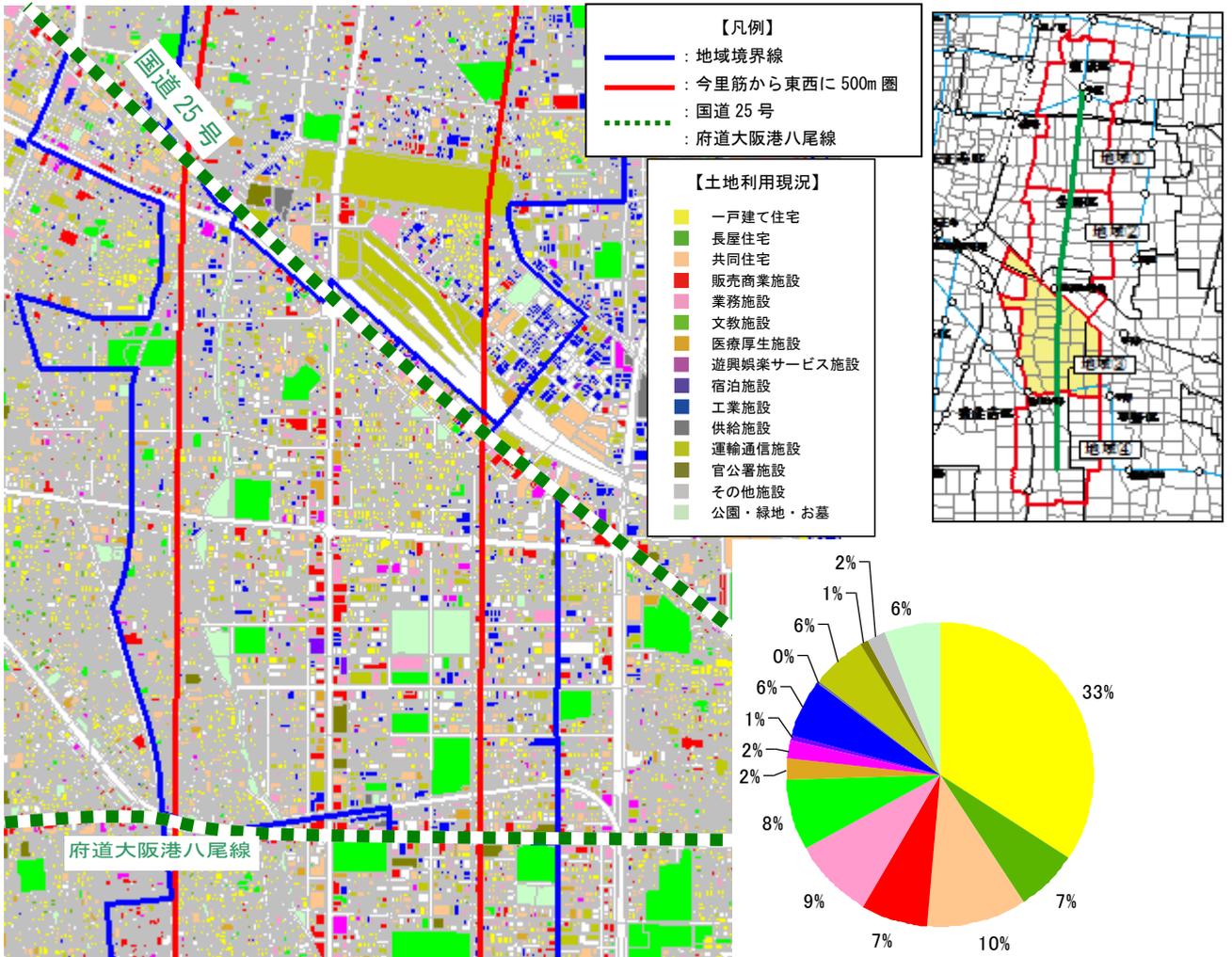
図 1-12 地域②の土地利用状況

表 1-4 地域②の主要指標

人口	32,058 人 (H22 国勢調査)
高齢化率	28.6% (H22 国勢調査)
人口密度	12.10 千人/k m ² (H22 国勢調査)
従業人口	21,406 人 (H21 経済センサス)

●地域③（「国道 25 号」以南～「府道大阪港八尾線」以北）

沿線は、土地利用では一戸建て住宅の割合が高く、特に国道 25 号以北と比較して、工業地域の割合が低く、住宅地に特化した地域である。



資料：平成 19 年土地利用現況調査（大阪市内のみを対象とした調査）
（今里筋から東西に 500m 以内に町丁の一部が範囲となる地域を対象とした）

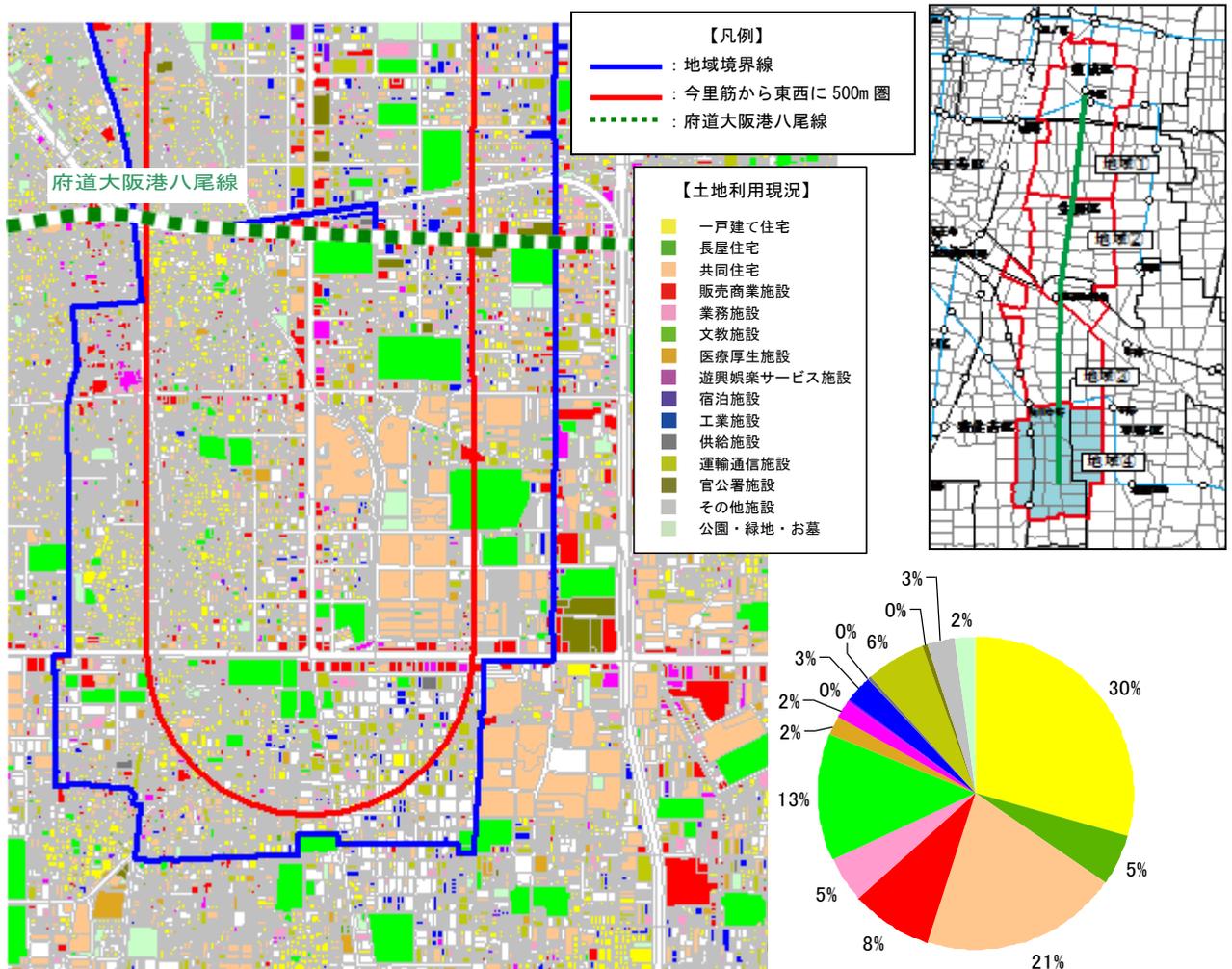
図 1-13 地域③の土地利用状況

表 1-5 地域③の主要指標

人口	39,781 人 (H22 国勢調査)
高齢化率	22.6% (H22 国勢調査)
人口密度	15.76 千人/k m ² (H22 国勢調査)
従業人口	16,266 人 (H21 経済センサス)

●地域④（「府道大阪港八尾線」以南）

沿線は、地域③と同様に土地利用では一戸建て住宅の割合が高く、工業施設の割合が低く、住宅地に特化した地域であるが、特に喜連西などに市営住宅が位置し、共同住宅の割合も高い。



資料：平成19年土地利用現況調査(大阪市内のみを対象とした調査)
(今里筋から東西に500m以内に町丁の一部が範囲となる地域を対象とした)

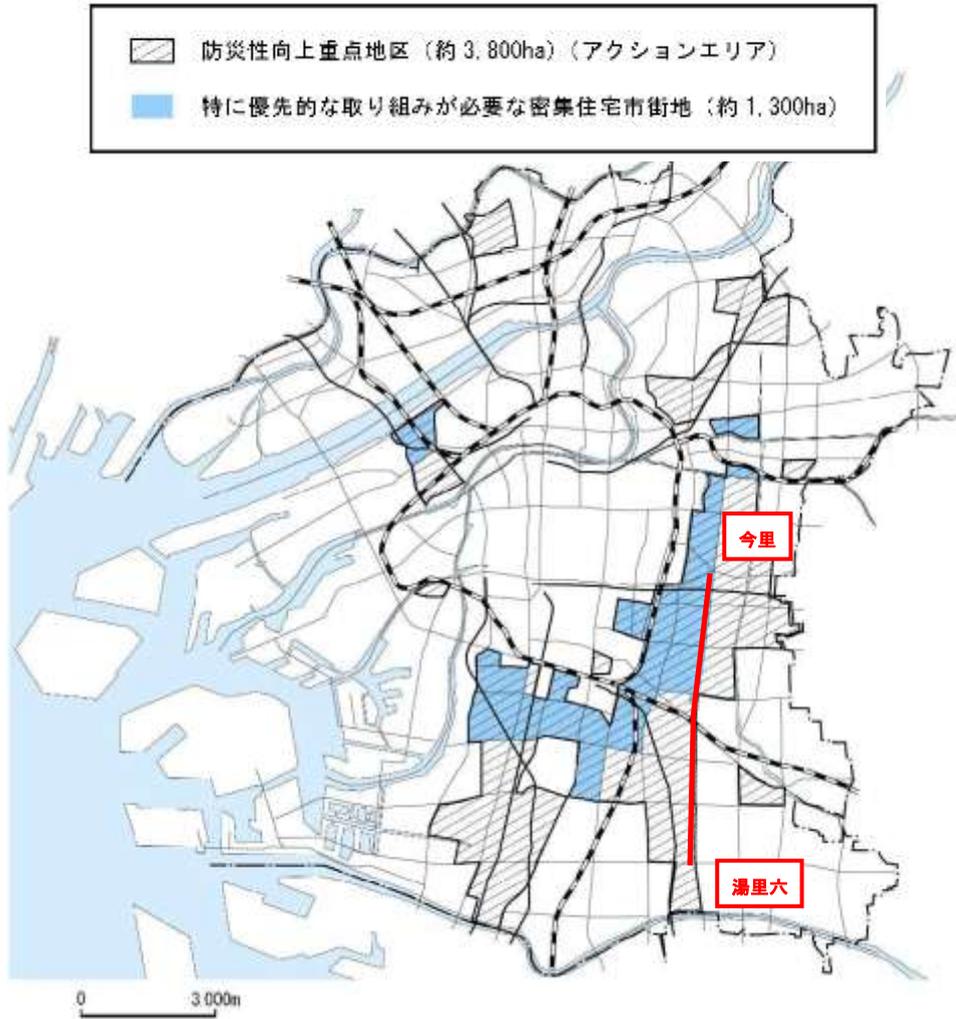
図 1-14 地域④の土地利用状況

表 1-6 地域④の主要指標

人口	41,811人 (H22 国勢調査)
高齢化率	26.6% (H22 国勢調査)
人口密度	15.75千人/k m ² (H22 国勢調査)
従業人口	14,729人 (H21 経済センサス)

③ 密集市街地の状況

沿線は、特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地として指定された地域が広がる。



出典：国の施策・予算に関する提案・要望（案）（平成 25 年 6 月 大阪市）

図 1-15 大阪市における密集市街地

<生野区南部地区整備事業>

生野区南部地区では、整備事業が進められており、住環境の改善と防災性の向上が図られている。



出典：大阪市 HP

図 1-16 大阪市における密集市街地

④ 主要施設等（未利用地等）の立地状況

第8号線延伸の沿線には、北部には遠方からの来訪も見込まれるコリアタウンが立地するほか、南部には、複数の大学が立地する。



図 1-17 沿線の主要施設等